

孤独死後のご遺体・室内の危険性

病理解剖の結果、孤独死のご遺体の70%に感染症が存在したという報告があります。

ご遺体は、72時間でガス化し膨張します。
体内で発生したガスによって身体が膨張すると鼻腔、口腔から血液が流出します。
さらに皮膚の弱い部分から裂け、体液が流れ出てきます。
排泄物の漏出もあります。

ご遺体は細菌やカビ等の微生物の繁殖によって腐敗します。
この微生物は遺体を栄養源として繁殖し続けるため増殖し続けます。

死体ですのでリンパ球が働きませんので元々持っていたウイルス・菌も増殖します。
元々あるウイルス・菌とは生存中に感染しながらも発症にまで至らなかった結核、梅毒、O157など様々なものがあります。
それらのウイルス・菌が室内に充満していると言っても過言ではありません。
ウジ・ハエが発生したときにはそれらの菌をその住居に広範囲にばら撒いているのです。

そのようなご遺体に触れることはもちろん、その部屋に無造作に出入りすることすら危険を伴うのです。
ウイルス・菌によっては空気感染もあります。

私達の行う現代の葬儀、火葬の仕組みはこういった感染症を防ぐ意味もあるのです。

- 1、ドライアイスによる腐敗進行を遅らせること。
- 2、枕経、通夜、告別式の3日間で火葬すること。

<https://deo.2lala.net> 曲友(かねとも)特殊清掃事業部